

大地

第 57 号
2018.6.20.発行
浄 國 寺
上越市町3丁目14-10
☎025-523-5724

俳句

亡き夫の十二回忌躑躅燃ゆ

山崎 睦

コーラスの聞こえる校舎若葉風

朴の花見下ろす谷の深さかな

夏草の少し刈られて無住寺

訪へば猫が出て来る昼寝時

漸くに梅干すほどの晴れとなり

句集『朝の光』より

平成六〇七年

さあこのお宝の鑑定額は

山崎隆史

以前、テレビを点けたら、人工知能に関する番組をやっていました。VTRで学者さんが「人工知能に将棋をやらせるなんて意味が無い」と言いました。それに対し、スタジオにいた別の学者さんが「意味というのは主観的なものであって、意味が無いという評価こそ意味が無い」と笑いながら反論していました。私はスタジオの学者さんに同意します。例えば、円の中に黒点が3つ、三角形状に描かれているだけで、顔に見えてしまうのが人間です。「へのへのもへじ」も顔に見えるし、光っているものが空を飛んでいるように見えたらUFOだと思っし、幽霊の正体見たり枯れ尾花なのです。どんな物にも「意味」を付けてしまうのが人間なのです。

同じく価値というのも、客観的な不変の物ではありません。人によって、状況によって変化するものです。離島でジュースが高かったり、砂漠で水が貴重だったりというのが分かりやすいでしょうか。とてつもない高値のつく骨董品が、興味のない人にとってはガラクタにしか見えないというのもあります。

価値観は人それぞれ、自分にとって大事な物を「意味が無い」とか「価値が無い」とか

他人に言われても気にする必要はありませんし、逆に人に価値観を押し付けるような真似は避けるべきです。

とは言うものの、権威のある人の評価というのは気になるもののようなのです。知らない分野の物でも、「目利き」と呼ばれる人が評価すれば、そんなものかと思うものです。色々な「お宝」を「鑑定士」が鑑定して値段を付ける、人気テレビ番組があります。私も好きで、よく見ます。

ある時その番組に、ウチと同じ宗派の寺の住職が出てきて、「お宝」として「御絵伝（ごえでん）」を出品しました。御絵伝というのは、親鸞聖人の生涯の各場面を描いた掛け軸です。その時出品されたのは寺に伝わる古くて立派な物でしたが、似たような物はあちこちの寺にありますし、新しい物なら売ってまです。骨董品や美術品としての価値がどうあれ、我々にとって大切な物です。正直、金銭に換算してほしくないと思いました。

私の気持ちなど関係なく、画面の向こうでは御絵伝が鑑定され、値段が付けられました。寺の由緒のせいとか、特に立派な物だったのか、結構良い値段でした。

値段を見て、それまでの気持ちを引きずりつつも、何となく嬉しいような誇らしいような妙な気分になったのは、どういう心のはたらきだったのでしょうか。

期

山崎直子

巢立鳥真青な空が待つてをり

稲畑廣太郎

先日、お世話になった方の息子さんがアメリカ留学へと出発しました。

行きたい気持ちがあるようだと言われたいはいたもの、小さい頃から知っている男の子が実際にはるか海の彼方へ行ってしまふのはやはり寂しいものです。そういうえげもう高校も卒業だったんだなあ、と今更ながらに考えながら、浮かんできたのはこの「巢立鳥」という響きでした。

昨今のブームのお陰か俳句の番組もよく見かけるようになり、言葉のひとつひとつが持つ意味を調べ直す機会も増えました。そういう時たいてい最初に辞書を取り出すのはお義母さんで、家族みんなで領いたり時には首を傾げたり、あらためて日本語の豊かさを感じています。

「巢立鳥」はちょうど初夏の季語で、こ

の句にこめられた励ましや願いは旅立つ彼に重なります。アメリカの大学に進学するために個人でも英語のレッスンを受けたらホームステイを経験したり、こつこつと準備を重ねる中でそれでも一時期はやはり日本の大学という選択肢も考え迷ったという、三兄弟の優しい末っ子。送り出すご両親の心配は尽きないことでしょうが、十八歳の決断と勇気が、たかさんの出会で報われるようにと今は祈ります。

十代の頃、とくに学生という区切りは必ず次の新しい何かを選択することを求めます。期限付きで押し出される流れはときに手厳しくもあり、まわりと比べて落ち込んだり希望通りにはいかなかったり、選ぶ、決める、ということの結果は常に優しいものとはいきませんが、内向き、省エネ、サトリ、と形容されてしまう世代にあつてそれを自分の力で超えていく姿は逞しく、羨ましくも映るのです。年齢を重ねていけば今度は自分の意志でコントロールできる範囲が増える分、

一定の期間が特別な意味を持つ、ということはほぼなくなるでしょう。ただその分、自分で動かなければ何も変わらなくても済んでしまうかもしれず、変化も成長も必要ないまままでいられてしまうのかもしれない。そして、それに気づくことすらもないのかもしれない。期限を切られたから動くのではなく、いつだって次に踏み出していける好奇心と身軽さを大人だからこそ備えていたいと、半ば反省のように考えます。

自分の知っているものの範囲と経験だけで生きていくことは簡単でもとても恐ろしい。そんなことを飛び立つ鳥からポンと放り投げられたような気がした、梅雨の入り口となりました。

巢立鳥空が迎えてくれるなり

作者を忘れてしまったのが申し訳ないのですが、同じ季語で。巢立っていく人たちの空の高さが、アメリカであれ日本であれ、限らないものでありますように。

初めての時間

山崎隆昌

六年前の六月、八十三歳で逝去された鹿住ハルノさんは、物静かな中に凜としたお姿で歌をよく詠まれた。

ご主人の晋爾さんも歌人、頸城地方の短歌会の中心であり、短歌誌『北潮』の主幹もされていた。

ご夫婦には二人の女のお子様がおられたが、お一人当時大学生であった方を亡くされた。その折りのハルノさんの悲嘆された様子は、痛々しく、どうかかなりはしないかと思われるほどだった。

気持ち落ち着かれてからは浄國寺の同朋会に熱心に参加され、また私の母とは馬が合ったようで、二人で楽しそうに話をされたいたことを思い出す。

晋爾さんが亡くなられたのは平成六年で、それから読書と歌作りの静かな一人暮らし、

朝なさな 扉をひらき 焚く香の

かほり漂い ひと日はじまる

鹿住 春乃

朝な朝なに、お内仏の扉を開け、蠟燭に明かりをともし、香を焚き、正信偈のお勤めを

し、お念仏を称える。いつしか香のかおりが部屋に拡がり、かおりの中に身が包まれる。そして新たな一日が始まるとの気持ちを詠まれた歌。

この歌を詠まれた頃は、ご自身が病に冒され、遠くない死を意識され、身辺の整理をされていた。毎月のお勤めで、ご自宅にお伺いすると、この歌のように、静かに、おおらかに、一日を過ごしておられ、その姿に心打たれたものだ。

短歌に限らず俳句や詩に親しみ、創作に意欲を持てる人はいいなアと思うし、自分もそうありたいと思っはいるのだが、どうも難しいようだ。

歌や俳句、詩等の創作は、自然に目や耳を寄せ、人の様子に心を運び、自らの心に問う作業といえよう。

工藤直子の詩に『まいにち「おはつ」という素敵な27行の詩がある。

目がさめて せのびして

「きょう」という日の 扉をあけると

うまれたばかりの そよかせが 世界中に お日さまのにおいを

とどけているところでした

さあ いちにちが はじまるね

まいにち「おはつ」

まいにち あたらしい

東西南北・みぎひだり

どちらに むかって歩いて

「きょう」はじめての第一歩

だれに出会って 笑いかけても

「きょう」はじめてのごあいさつ

そう思うと なんだかドキドキだね

まいにち「おはつ」

まいにち あたらしい

※以下略

目がさめて迎える「きょう」という日は、まいにち「おはつ」とうたう。見えてくる花や木も、出会う人も、まいにち あたらしいという。ニュアンスは違うが、鹿住さんの「ひと日はじまる」と通じるものがある。

私と言え、スピードと便利さと溢れる情報に振り回され、目の前に右往左往している日々である。しかも、そのような我が身に違和感も無く、無意識の内にそれが当たり前前の生活のようにさえ思っているところがあり情けない。

このような歌や詩に出会うと、自分も一日一日を、新鮮に、ていねいに、大らかに、過ぎる時を刻みたいと思う。



ワン公物語①⑦

—華のつばやき—

山崎 華（慎子代筆）



私は華。パグ犬の雌。私はとうとう十一才になった。六月一日は誕生日だった。だけど誰もそのことに気付いてくれなくて、お祝いの言葉もケーキも、当然プレゼントも何もなしに誕生日は寂しく過ぎてしまった。

いつもは、私はみんなから結構可愛がられて、大事にされているらしいと思っていただけだけれどなあ。マ・イイか！

母さんは獣医さんから「華ちゃんの体重は七キロでおさえて下さいね」と言われていて、今迄は何とかキープできていた。けどさすがこの年になると、散歩は煩わしいばかりで、近頃は散歩を拒んで日がな一日眠っては食べ、そしてまた眠る。そんな暮らしぶりのせいも、少々お太り気味である。

でも散歩は嫌い。世の中には散歩を心待ちにして催促するヤツもいるらしいけど、全く信じられないことだ。決められたコースを、よそ見もせずただ歩いて何が楽しいのだろう。散歩とは即ち随歩、あるいは逍遥というのが私の理想なのだ。

父さんのリードにひっぱられて唯々歩くなんて、あれは散歩ではなく、言うなればトレーニングであると思う。

でも、シニアという老犬の枠にくくられてしまうようになった今、ただフラフラと気儘にしていたら、それは徘徊なんて言われてしまうだろうな、きつと。だったら寝るより楽はなかりけり、とばかりに私は眠る。

眠る私の側で、母さん達が時折「ひどいイビキ！犬なのにねえ」と驚いてるが、心のまに寝息をたてて私は眠る。

イビキだって仕方がないのだ。だって私達パグは、人間の勝手に愛玩用に改造され続けているような鼻ペチャにされてしまったのだから。この鼻では呼吸が結構大変だってことを、しっかり知ってもらいたいものだ。

私はゴハンが待ち遠しい。と言っても、母さんがしっかり管理しているので三度のゴハンと言ってもほんのわずかなものだ。おやつも食べさせてくれないし、まして母さん達の食べているものは、未だに食べてみたことはない。ほぼいつも家族の食事の場に私も一緒に居るのだけど、私は決して欲しいなんて言いはしない。たとえば鍋料理やお好み焼などの良い匂いが漂ってくる時でも、ただの一度も欲しがったりしたことはない。私の中ではどこでいつどうなったか分からないのだけれど、アレは母さん達のもの、私の食べ物ではないし、欲しがらるなんて汚券にかかわるんだってしっかり刷り込まれたのだ。

母さん達が、時々そのことを話題にして私

を誉めてくれる。そしてそういうワン公を育てた自分達のこと誇らしく思うらしいことが、私としては少し滑稽に思うんだけど、嬉しいんだ。それならそれで、マ・イイか！

華ちゃん、自分のことばかりつばやかないで、アノ人のこともお話してよという、声にならない声が聞こえる。

アノ人って？あ、直子さんのことね。それは私にもよく分かるんだけど、ほら、いつの頃からか個人情報云々って言われているでしょ。特に新しい大切な家族のことは慎重にしないとね。その位の気遣いは、私にもできるといふ訳で。

直子さんはね、私のこととても大事に可愛がってくれるんだよ。お天気の良い日はね庭掃除がてら私を外に連れ出して自由に遊ばせてくれるから、その時間の楽しいことったら、何にもたとえられないくらい。

直子さんがゴハンをくれる時、あの優しい声で「華ちゃんおすわり！伏せ！待て！」って言うんだけど全然迫力がなくて、母さんのとはまるで違っている（こ、だけの話）

でもそんなこと言っただけで無視したら申し訳ないかなアと思うから、私は、あの優しい声が「ヨシ！」って言ってくれる迄、一応我慢することにしてるんだ。嘘でしょって？

うーん マ・イイか！

（以下 次号）